

原爆犠牲者慰霊碑「友愛の碑」に損保関係者が献花・参拝

～「広島原爆の日」である8月6日に、約100人の損保関係者が集まる～

日本損害保険協会中国支部(委員長:藤井 竜太・東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員)では、原爆投下から79年を迎えた、「広島原爆の日」である8月6日(火)午前8時00分、広島市主催の平和祈念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が開催される中、約100人の損保会社社員や保険代理店職員などの損保関係者が、原爆犠牲者慰霊碑である「友愛の碑」に集まり、献花・参拝を行いました。昨年8月24日に、「友愛の碑」の由縁を記した銘板を設置して、初めて「広島原爆の日」を迎えることとなります。

次いで、原爆投下時刻の午前8時15分には、平和の鐘にあわせて、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈り、全員で黙とうを捧げました。

なお、広島市主催の平和記念式典では、岸田 文雄内閣総理大臣などが出席したことに加え、被爆者や遺族など多くの方が参拝しました。

■友愛の碑

原爆投下から20年が経過した1965(昭和40)年、広島市の平和記念公園前の平和大通りに、原爆の犠牲となった損害保険会社職員89名の慰霊と平和へのいしずえを祈念して、当時の広島地方委員会(当支部の前身)が中心となって建立した記念碑。産業別の記念碑の設立はめずらしい。彫刻家の故・辻 晋堂 作。

4個の十字形は人間の形を表したもので、4は東西南北を示し、全世界を意味している。彫刻の上の もう1つの十字形は死者、原爆犠牲者を表しており、4個の人の形によって、平和を希求する全世界の人々の、愛と良心が原爆犠牲者の冥福を祈っていることを表現したいという願いが込められている。



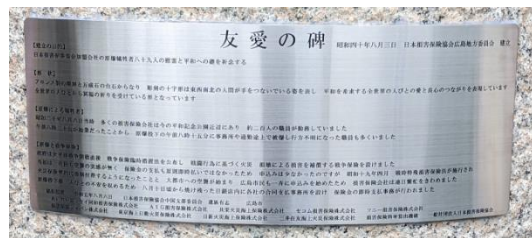
献花・参拝する藤井委員長



平和の鐘にあわせて黙とう



「友愛の碑」



由縁が記されている銘板